



## 1 ネットいじめを考える [産経新聞2020年10月23日]

産経新聞に次のような記事が掲載されていました。

文部科学省が2020.10.22日に公表した**2019年度の問題行動・不登校調査**では、携帯電話などでの誹謗(ひぼう)・中傷といった「**ネットいじめ**」も**過去最多の1万7924件**に上った。14年度(7898件)の2倍以上の水準に達したが、SNS(会員制交流サイト)の**閉鎖性が認知のハードル**となっており、その全容はうかがい知れない。子どもたちに自ら問題意識を根付かせなければ、根本的な解決が難しい状況でもある。

「君たちは、本当にそれでいいのか？」岐阜県笠松町立笠松中で20年7月、急きょ開かれた1年生の学年集会で、学年主任の教諭が生徒たちに呼びかけた。

同中学では、同じ小学校の出身者がLINE(ライン)のグループチャットを作っていたが、人数が増えすぎると遊びの予定を立てづらくなるという理由から6月に全員でいったんチャットを退室。その後、一部の生徒が、仲の良くない生徒には内緒のまま別のグループチャットを立ち上げていた。「誰を外し、誰を誘うか——」彼らは、そんな「選別」を行っていた。

この動きに気づいた学校側はいじめにつながると捉え、集会を開いた。生徒指導担当の久保田日香里教諭(31)は「関わった生徒だけでなく、全員に当事者意識を持ってほしかった。やってはいけないことだと、自ら気付く力を育てほしい」と振り返る。

今回の調査によると、ネットいじめは、**小学校5608件**(前年度4606件)▽**中学校8629件**(同8128件)▽**高校3437件**(同3387件)▽**特別支援学校250件**(同213件)——と中学校での認知数の多さが目立つ。また、小学校では前年度から約1000件も増えた。

内閣府の調査では、19年度の小中高校生のネット利用率は**93%**に達し、うち小学生の**42%**、中学生の**75%**、高校生の**90%**がネットをコミュニケーション手段として使っていた。全国ICTカウンセラー協会代表理事の安川雅史氏は「**SNSなどでの会話は顔を向き合っていないため、言葉が誤解されることも多い**」と、トラブルに結び付きやすい事情を説明する。

17年に起きた埼玉県立高2年の女子生徒(16)の自殺では、県教育委員会の第三者調査審議会が「(Twitter上の)書き込みをきっかけに自殺を考える精神状態に至った」と報告。女子生徒が数人しか見られないようにしていた書き込みを、当時交際していた男子生徒の妹がTwitterに暴露し、「どんな顔して学校に来るのか楽しみ」「(女子生徒の)味方はいない」などと書き込んだことなどをいじめと認定している。

ネットいじめは認知が難しいのが一つの特徴でもある。SNSが普及し、「ネット掲示板のようにネットパトロールでは捉えにくくなっている」(文科省)。笠松中のように、**子どもに自らの問題として向き合わせ、「自浄」の力を育てる教育は不可欠だ**。

チャット機能のあるオンラインゲーム上でのトラブルも相次いでいるといい、安川氏は「子どもがスマホを利用する場所を保護者がいるリビングに限定するなど**家庭でもルール**を設けてもらいたい」と話している。

## 2 法改正と表現の自由を考える

ネット上での誹謗中傷がエスカレートしている中、発信者特定に向けた**法改正が進められています**。女子プロレスラーの自死が契機とされるが、著名人に限らず「ネットいじめ」等は学校現場での大きな課題の一つとなっています。

今、**学校や家庭**でできることは、**卑劣な誹謗中傷行為は「犯罪である」と小学校段階から強調**すること。そして、「**書き込んだ文章は実名で公表できる内容ですか?**」「**【送信】をクリックする前にもう一度考えましょう**」と繰り返し伝えていくことではないでしょうか。さらに「**あなたの心ない一言が、楽しく便利で、しかも自分の自由をも守ってくれるネット空間を奪ってしまうことにもなるんですよ**」と表現の自由の意味にからめながら説き続けていくことだと思います。

## 3 センターの活動紹介

### (1) [不審者対応訓練]



コロナの影響で例年より実施校が減っていますが、三密を避ける工夫をしながら本年度もこれまでに、**9校・2園が実施**しています。コロナ禍の状況でも不審者から自分の身を守る訓練や学習は大切です。

### (2) [交通安全指導]



阿南警察署交通課・高校の生徒指導担当の先生方と一緒に自転車通学の高校生を対象に交通指導を行いました。イヤホンをつけて乗っている生徒が多数おり、指導しました。**イヤホンをしての自転車乗車は禁止されていますし、大変に危険ですので、高校生だけでなく中学生・小学生にも指導が必要と感じました。**

## 4 新しい青色灯パトロールカー

12月から新しい「青少年健全育成パトロールカー(通称:青パト)」の運用が始まりました。これまで同様、市内をパトロールし、子どもたちの見守りと青少年の健全育成に努めて参ります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 5 冬休みに向けて

冬休みは、クリスマスや年末・年始等、人と会う機会も多くなります。**コロナの感染予防・感染拡大防止**のためにそれぞれに自覚をもった行動が求められます。また、**飲酒や喫煙、ネットやゲーム依存等の防止**にもご注意いただき、青少年の健全育成のためにご協力をよろしくお願いいたします。

